

国宝浄土寺指定文化財一覧表				
指定文化財名	指定区別	種 別	数 量	
浄 土 堂	国 宝	建 造 物	1	棟
木造阿弥陀如来及び両脇侍立像	国 宝	彫 刻	3	軀
薬 師 堂	国 指 定	建 造 物	1	棟
八 幡 神 社 本 殿	国 指 定	建 造 物	1	棟
八 幡 神 社 拜 殿	国 指 定	建 造 物	1	棟
木造阿弥陀如来立像	国 指 定	彫 刻	1	軀
木造重源坐像	国 指 定	彫 刻	1	軀
木造菩薩面	国 指 定	彫 刻	25	面
鉦 製 五 輪 塔	国 指 定	工 芸	1	基
黒 漆 蝶 形 三 足 卓	国 指 定	工 芸	2	基
絹 本 著 色 仏 涅槃 図	国 指 定	絵 画	1	幅
絹 本 著 色 真 言 八 祖 像	国 指 定	絵 画	8	幅
開 山 堂	県 指 定	建 造 物	1	棟
鐘 楼	県 指 定	建 造 物	1	棟
行 道 面	県 指 定	彫 刻	4	面
鬼 面	県 指 定	彫 刻	2	面
浄土寺（浄土堂）扁額	市 指 定	歴史資料	1	面
伝 観 阿 上 人 墓 所	市 指 定	史 跡	1	基
浄土寺浄土堂旧板壁	市 指 定	歴史資料	2	台
浄土寺大般若経	市 指 定	典 籍	2	組



交通のご案内
●山陽自動車道で三木・小野ICから約15分
●中国自動車道で滝野・社ICから約20分
●神姫バス▶JR三ノ宮駅から1時間 ▶JR明石駅から約50分
●JR▶三ノ宮から加古川まで約30分、加古川から粟生まで約30分
●神戸電鉄▶新開地から小野まで1時間

■発 行
小野市観光協会（事務局／小野市地域振興部観光課内）
〒675-1380 兵庫県小野市王子町806-1
TEL.0794-63-1929 FAX.0794-63-2614
URL <http://www.ono-navi.jp/> E-mail kanko@city.ono.hyogo.jp

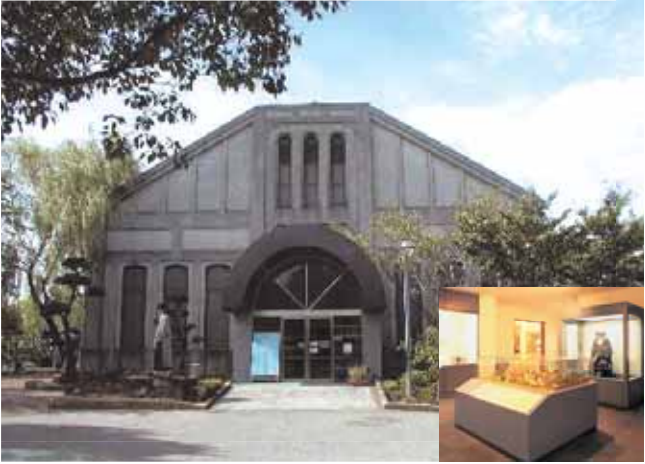
■お問い合わせ
浄土寺 兵庫県小野市浄谷町2094
歓喜院 TEL.0794-62-4318 宝持院 TEL.0794-62-2651
金鐘城遺跡広場・広渡廃寺跡歴史公園・小野市立好古館
小野市教育委員会いきいき社会創造課好古館係
TEL.0794-63-3390 FAX.0794-63-3462

かなつるべじょういせきひろば
金鐘城遺跡広場（昭和町）



青野ヶ原台地に築かれた中世の山城で、城主は播磨守護職であった赤松氏の有力な家臣中村氏とされています。城の周囲を囲む土塁や木橋、門、櫓などが復元され、往時の姿を知ることができます。また、城の遺構とともに弥生時代中期後半頃の竪穴式住居が6棟検出されています。

おのしりつこうこかん
小野市立好古館 歴史博物館（西本町）



小野市の歴史、芸能、風土に関する資料等を収蔵、展示しています。また、体験コーナー、ビデオコーナー、本格的な茶室「柳風亭」などがあります。
●入館料……………大人200円、小・中学生100円
●山陽自動車道三木・小野インターから車で15分

こうどはいじあとれきしこうえん
国史跡 広渡廃寺跡歴史公園（広渡町）



7世紀後半頃に建立された古代寺院跡で、東西両塔、金堂、講堂などが確認され、奈良の薬師寺と同じ伽藍配置であったことが明らかになっています。現在、史跡公園として整備され、基壇とよばれる建物の基礎や、国内初のセラミック製1／20の縮小伽藍模型、ガイダンスホールがあります。



ボランティアガイド
「小野ガイドひまわり」
国宝・浄土寺、広渡廃寺跡歴史公園、金鐘城跡遺跡広場、小野市立好古館といった、市内の魅力あふれる観光スポットをご案内します。
●ガイド費用／無料
●3名以上のグループより申し込み受付。
●ご利用される方は1週間前までに小野市観光協会（0794-63-1929）にお申し込みください。



小野市観光協会

国宝 浄土寺

浄土寺は、今から800年前の鎌倉時代初めに建立された寺院です。加古川左岸の小高い丘陵の先端部に位置し、ここから西方を望めば、広大な平地と大きな空が広がっています。この平地部は、奈良の東大寺の荘園であったところで、「大部荘」と呼ばれていました。

源平合戦の兵火により焼失した東大寺を再建するための責任者（勸進職）となった重源上人は、この地を再開発することによって、再建のための費用を賄おうとしました。その拠点としてつくられたのが浄土寺で、「播磨別所」ともよばれています。境内は、敷地の中央に八幡神社を配し、その前に池を挟んで浄土堂と薬師堂が向かいあうという珍しい配置となっています。

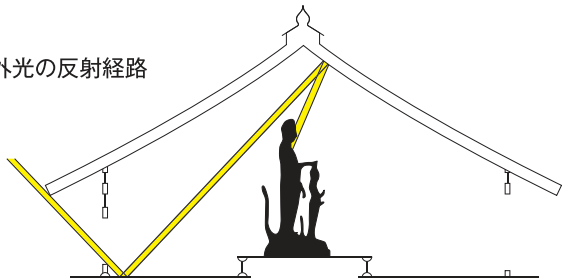
建物だけでなく、彫刻、絵画、工芸品、石造物など数多くの貴重な文化財が残されており、鎌倉時代の息吹を今に伝えています。

浄土堂



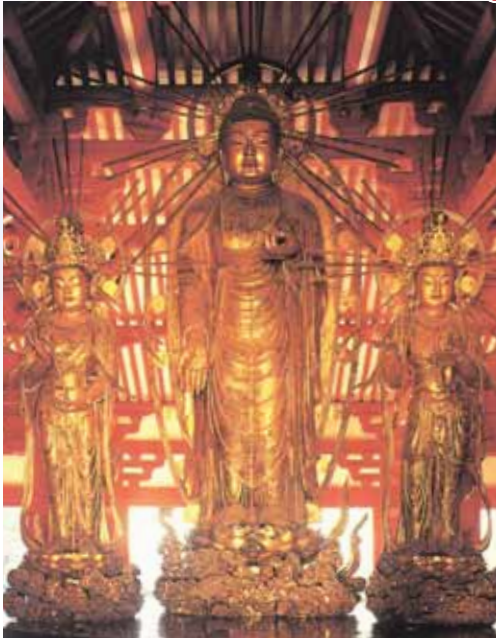
本瓦葺、宝形造のお堂です。柱間が6mと広く、屋根が直線的で、外観は低い建物のように見えますが、堂内に入るとその広さに驚かされます。東大寺再建に用いられた大仏様（天竺様）を残す唯一の仏堂で、虹梁を支えるために太い柱に差し込まれた挿肘木や天井を張らない化粧屋根裏、隅部の扇垂木などにその特徴が認められます。

浄土堂 外光の反射経路



「浄土寺阿彌陀三尊像とその視覚的環境について」『東京芸術大学美術学部紀要』より

阿彌陀如来及び両脇侍立像



名仏師快慶作の巨大な三尊立像で、浄土堂中央の円形須弥壇上に立っています。背面となる西側が格子戸（都戸）になっていることから、夕方になると西陽が差し込み、堂内が一段と明るくなります。さらにこの西陽は床に反射して屋根裏にあたり、それが本尊にふりそそぎ、本尊を赤く染めます。また、直接入ってきた光が、足元の雲座部分をかすませ、この巨大な赤い三尊が雲に乗って浮かんだようにみえるのです。これは、阿彌陀様が雲に乗って西方浄土から迎えにくるという「御來迎」の姿を、実際に見せようとしたものです。まさに光を用いた舞台芸術、光のオブジェともいえ、我が国の文化、また歴史においても類をみないものとなっています。



重源上人坐像

浄土寺の開祖、重源上人の坐像（木造）です。鎌倉時代の天福2（1234）年に奈良から当寺に迎えられました。数珠をたぐりながら念仏を唱える老僧の姿がみごとに写しだされています。（奈良国立博物館へ寄託）

八幡神社本殿



創建時にまつられた浄土寺の鎮守社です。現在の建物は、室町時代後期の特徴をとどめた檜皮葺の三間社流造の建物で、花木や鳥などを配した写実的な基壇にその時代の特徴がよくあらわれています。

八幡神社拜殿



本瓦葺、寄棟造の大きな割拝殿です。現在の建物は鎌倉時代後期に再建されたものですが、天井を張らない化粧屋根裏や虹梁の架け方などに大仏様の技法が認められます。



鐘楼

現在の建物は、寛永9（1632）年に建てられたもので、檜皮葺、入母屋の大屋根と裾部の袴腰が優美に調和し、江戸時代初期の様式がよく残っています。



薬師堂

建久8（1197）年に上棟しましたが、焼失により室町時代の永正14（1517）年に再建されています。規模は浄土堂と全く同じですが、純粋な大仏様は失われ、和様、唐様などの建築技法が混在した折衷形式の建物となっています。

開山堂

開祖である重源上人の坐像を安置するためのお堂です。薬師堂とともに焼失し、同時期に再建されています。現在の建物は、本瓦葺、宝形造の簡素な建物で前側が庇となり、古風な形を今に伝えています。

